

令和 6 年度 新潟県地域年金事業運営調整会議 議事要旨

開催日時： 令和 6 年 9 月 17 日（火）13：30～15：30

開催場所： 新潟東映ホテル

出席者： 委員 12 名

日本年金機構 12 名

1. 開会 日本年金機構 新潟西年金事務所 副所長

2. あいさつ 日本年金機構 新潟西年金事務所長

運営調整会議委員の紹介

日本年金機構職員の紹介

3. 議事

議事 (1) 「令和 5 年度新潟県地域年金展開事業取組結果及び令和 6 年度取組方針について」

資料 1 令和 6 年度 新潟県地域年金事業運営調整会議（資料）

事務局より資料 1 に基づき説明

【主な意見・発言】

- 小学生への年金セミナーに興味を持った。どのようなきっかけで開催するようになったのか、どのような説明をし、児童の反応がどうだったのか教えてほしい。
- 今年は年金の日 11 月 30 日（土）に休日開所することだが、機構 HP 以外にも広報した方が良いのではないか。
- みんなは年金制度全体を知りたいわけではなく、一人ひとりが自分の生活に応じて、いつ払って、いつもらえるのかを知りたいところであるかと思う。年金相談の機会を増やす努力をしていただいた方がいいのではないか。
- 若い方と話すと、年金はまだまだ先だと言われて、障害や遺族もあるんだよと話をしても、なかなか伝わっていないなと感じている。一方で大学生から N I S A をしていて、Y o u T u b e で確認したりして自分で知識を習得している人もいる。今後も若年層に届きやすい媒体を活用した情報提供をし

ていただけたらと思う。

- 学校では年金セミナーの時間が取れないので、授業の時に 5 分、10 分でもタブレットで動画を見せながら話をするのはありなのかなと思った。動画をこのように使うと上手くいくというのがあれば、さらに進むのではないかと思う。
- 年金セミナーのコンテストなど、うまく伝えようと工夫されていることが伝わって素晴らしいと思う。さらにブラッシュアップしながら、中身をいいものにしていただけると嬉しい。
- 各商工会議所も会報誌を持っているので、会報誌での周知も協力できるかもしれない。既存の考え方だとらわれず、少し広げて周知を進めていただけると嬉しい。
- 国民年金と国民年金基金は対象者が重なるなど、密接につながっているので、制度周知を行う時は合同でできないかと思う。
- 被用者の適用拡大から逃れようと、わざと就労時間を減らす方などいるが、目先の利益を追求するだけでなく、厚生年金、健康保険に加入するのがベストだと思う。年金機構と協会けんぽが手を携え、そのような方に向けて広報できるといいと日頃から考えている。
- 自分の娘にも追納の案内が来たが、それを納めると年間 4 万円の年金が増える。そこをしっかり伝えたうえで追納の案内を出すと、納める、納めないの判断がしやすくなるし、制度を見てみようという行動が起こせるのではないか。判断材料となることをしっかり伝えてあげる、それが訴求効果のある広報だと思うので、ぜひそのようなことを念頭に広報を行って頂ければと思う。
- ハローワークと年金事務所は密接に連携している。先程の適用拡大の関係でも、労働局として国の助成金を使って事業所に支援ということもあるので、その周知もお願いできればと思う。
- 学校教育の現場では何々教室を行ってほしいといろいろな所から依頼が来る。消費者教育を巣立ち教室で行っている学校も増えてきている。生涯に

わたるお金に関することをまとめて 1 つのセミナーになると学校としても取り組みやすいのかなと思う。

- ねんきんエッセーの関係で、年金セミナーを受講している学生から、自分は年金に対してこのような認識を持っていますという感想文を書いてもらうのはどうか。
- 制度を周知するにあたって、年金が厳しいという話を聞いてきている若い人たちの不安を払拭するような信頼感を醸成する周知が必要だと思う。制度周知と信頼感の醸成ができるようなセミナーが効率的ではと思う。
- 地域に潜在的な相談需要はあると思う。年金委員のレベルに違いはあると思うが、レベルごとに活用しやすい資料作りや市町村の広報誌に活動内容を書いていただいているが、引き続き周知をお願いする。地区の身近な相談相手として、年金事務所とのパイプ役になれればと思っている。

4. 閉会あいさつ

日本年金機構 北関東・信越地域部 事業推進役